

広報 妻籠宿



公益財団法人妻籠を愛する会

令和5年11月20日発行

No.148



(一石栃立場茶屋)

メディア等にも時折取り上げられる一石栃立場茶屋。秋が深まるにつれ斜光も美しくなってきました。

つい先日まで流行病で静まり返っていたとは思えない程に海外からのお客様も多く、以前お伝えした「洗い張り板」も2枚に増設されました。それもいっぱいになってしまうので、撮影・記録しては拭き取って、次の方々に書いて頂いています。

今年の風俗絵巻之行列は通常開催の予定ですし、以前のにぎわいがこの山里にも戻ってきました。

小笠原 美雪

空き家対策特別委員会発足

理事長 藤原 義 則

本年5月の理事会、評議員会において空き家対策特別委員会設置が決められてからの経過をお知らせします。少子高齢化の大波は日本中で発生しています、妻籠宿においても例外ではなく子供の遊ぶ姿や通学の姿を見るのも少なくなりました。また、それに比例して空き家も増えてきました、放置家屋も増加しています。

このような現状を委員会の中で調べられる範囲で調べておくことが必要と認識してまとめていくのが役目です。過去の事例等も確認しながらすすめています。

- ・第1回は6月12日に行われ 委員会を立ち上げ、今後の方針と空き家調査。
 - ・第2回は6月29日に空き家の現状調査と集計を行いました。
 - ・第3回は8月に行われ1・2回の集計と修正及び町の移住・子育て支援の状況について町「もっと元気に戦略室」の担当から説明を受けました。
- 以上の積み上げを行いました。地元住民から見たそれぞれの家屋の観察状況を纏め中です。

空き家については、それぞれ固有の課題もあります。持ち主の考え方・家屋の現状・上下水道の設置状況等があります。持ち主が地元にはない物件がほとんどで、内部の状況までは観察できませんがおおよそを調べています。人が居住しなくなって年月が経過すると風が入らず劣化が進み相当手入れをしないと利活用は難しい状況になっているのも事実です。そんなところを委員の中で共有しながら進めています。

案件が個人の持ち物であるので個人情報の縛りもあり公にはできませんが利活用が出来ればと思います委員共通の願いです。



〈空き家対策特別委員会開催中〉

サムライルート復活

理事長 藤原 義 則

コロナ・インフルエンザの大津波で寂しかった一石柘立場茶屋の国際会議場にも、連日多くの外国人が訪れて、インターナショナルミーティングが開催されています。この上期には地球儀の各地から来訪しました。日本人は10,500人、外国人は24,500人でした。ヨーロッパが一番多く52%アジアは25%北アメリカが12%です。国籍ではアメリカ・フランス・ドイツ・スペイン・英国の順です。世界89ヶ国から来訪です。

入口の来訪国記入板（洗い張り板）も国際色豊かに描いてくれています。サムライルート・妻籠宿の発信をしてもらえます。感謝です。



〈ハイカーで賑わう一石柘立場茶屋〉

「信州歴史的まちなみフォーラム 2023in 妻籠宿」開催

9月9日(土)10日(日)の2日間にわたって「信州歴史的まちなみフォーラム」が開催されました。

9日は、まちなみ見学会、「歴史を生かしたまちづくり」と題したフォーラム。各自夕食を済ませてから締めくくりの夜なべ談義へと続けました。

翌日はオプションツアーとして、馬籠峠頂上から中山道ハイキングをしました。

参加者は見学会23名、フォーラム80名、夜なべ談義32名、オプションツアー31名、全体としては実行委員を含めて95名でした。長野県内だけでなく、東京都、岐阜県、はるばる沖縄からの参加もありました。天候にも恵まれ皆さん有意義な時間を共有できたと思います。

次ページにかけて、参加者の感想と写真を掲載します。



〈まちなみ見学会〉

渡島 山下航

信州歴史的まちなみフォーラム 2023in 妻籠宿の全てのプログラムに参加をしました。

今回参加をして、妻籠宿の保存の重要さを改めて認識することができ、私にとってとても重要な機会になりました。それは、妻籠出身ではない移住者の私の脳裏にも、妻籠の町並みが昔の記憶を呼び起こさせる力があると思ったからです。

たとえば、案内人の方と厩を見学したときです。かつて、実際にここで馬を飼い、堆肥を作り生活をしていたという情景が浮かび上がってきました。

また、一石栃立場茶屋では昔の農機具などが置かれており囲炉裏に火もついていました。昔の生活を想像し、先人たちの生き様に思いを馳せることができました。このときも一石栃立場茶屋には海外の方がたくさんお見えになっていましたが、近代化が進んでも以前の日本の生活風景が色濃く残り体験できる建物に、そんな魅力を感じているのかもしれない。

私は「継承していくということはどういうことなのか」と思っていたのですが、今回参加したことで地域のために生きた人々の歴史の物語を記憶に留め、伝承していくことなんだと気づきました。だから、妻籠の町並みはそんな先人の生きた記憶を思い出させる、忘れさせない力があるのだと思います。

私はこの地へ移住をして10年がたちましたが、妻籠の町並みや自然が自分にとってかけがえのないものになるように、これからも愛郷心を育てていきたいなと、深く思えた2日間でした。



〈奥谷見学〉

特定非営利活動法人 稲荷山蔵の会
田中清江

「木曾路はすべて山の中である。」島崎藤村の「夜明け前」の有名な書き出しの一節である。

「信州歴史的まちなみフォーラム 2023in 妻籠宿」に仲間と参加するために乗った電車の車窓から眺める景色は、木曾川と山林が眺められるだけだ。藤原会長が妻籠宿には観光客が日本人よりも外国人が70%以上訪れるとお話されたが本当だろうか。この山奥に何があるのだろう。しかし、森林は見事な景観だ。そんな疑問を持ちながら妻籠宿に到着した。観光客には沢山の外国人がいた。

フォーラムに参加して、今まで抱いていた、「どうしてなのだろう」という疑問が解けてきた。妻籠宿を守る住民憲章が出来ているのだ。宿場の文化的価値と観光資源を地域の産業振興と結び付け、生かされている。

フォーラムから始まり夜なべ談義は楽しかった。役員さんの暖かなおもてなしが身に染みた。また、民宿の「かめやま」様には本当にお世話になった。人生で初めて囲炉裏の前での食事を体験した。

中山道ハイキングはキツカッタが、歩いて良かった。「木曾五木」の伐採を禁止するなど山林の保護が見事にされていて、暑い太陽の熱も遮ってくれる。涼しい。皇女和宮様も、この道をお通りになったのかと思うと心が弾む。一石栃立場茶屋での休息、キュウリの一本が美味しかった。「こんにちほ」外国人も普通に仲間に入ってくる。妻籠宿はおもてなし上手の人々が居る。

『時間』という宝 竹富島 上勢頭美保

社会がグローバル化する中、日本は失われた30年と言われているが、その中で妻籠のようにしっかりと維持されている景観に安堵を覚えた。ありがとうございます。義父、上勢頭昇が『竹富島憲章』を作成するにあたって手本にした聖地妻籠への初めての旅を通じ、改めて我が島のことを考えた。

人頭税解放から120年、敗戦から78年、復帰から51年、時代に翻弄される離島の苦難の時間。農村集落としてまちなみ選定されてから、元々島民が持っていた「美観」と専門家が教示してくれる「美観」を参考にしながら皆で頑張り、それはいつしか「地域社会の富」となった。失われた30年の間に観光客は10倍に増え、島民各々に具体的な経済波及効果をもたらしてきた。

島が好き！と住み着くIターン者が増えた。そんな若者が島で新たな団体が出来た時に考えたキャッチコピー「懐かしい未来」。イメージ写真は、昇が石ガンパラミー（※1）で水牛にハラガキ（※2）をつけて格闘しているものだった。若者の共感を呼んだようだが、農業を始める者は皆無でレンタサイクル屋ばかり増えている。家族想いの優しい若者が増え、しっかり休みを取り、観光客はランチ難民になった。私はそこに「内宮を守るために外苑の再開発が必要だ」という理屈と似たものを感じてしまう。

守る努力を誰かがしたからこそ今存在している物や事は、そこに現在住んでいる人たちだけの所有物ではなく、応援してくれてきた様々な人たちの心と人生が時空を超えて繋がっている。世代を超えて『時間』という宝を共通理解にするためには、リアル歴史の新しい表現が必要だと感じている。それは妻籠にも感じた。グローバル化が加速する今、『時間』という宝を手放してはならない。

※1 石だらけの土地

※2 ヤマ（※1で使う鋤の代わりの農具）で耕した畑から雑草を集めるための農具



〈フォーラム：歴史を生かしたまちづくり〉



〈中山道ハイキング〉



〈一石にて
稲荷山の皆さん〉



〈夜なべ談義の始まり〉



〈夜なべ談義
自己紹介中の山下さん〉

ワークキャンプを振り返って

奥ジャパン(株)妻籠支店 窪美範子

コロナ禍で3年間開催出来なかったワークキャンプ(合宿型のボランティア活動)をこの夏8月19日~20日に開催いたしました。一般参加に申し込みいただいたボランティア5名、町内より3名、弊社京都本社より社長を含め8名、妻籠支店より2名、計18名で実施しました。弊社社員は妻籠支店に、一般参加のボランティアの方は、南木曾駅前にある、よみかき交流文庫を特別にお貸ししていただき、そちらの2階に泊まらせていただくことになりました。せっかく来ていただいた一般参加の方向けに妻籠を愛する会の藤原理事長より、妻籠について、その後、案内人の松瀬康子さんに妻籠宿についてご説明いただきました。作業前にこのような時間を持てたことはボランティアの方達にとって貴重な体験になったのではと思っております。

作業内容としては、1日目、オオハンゴンソウの除去作業。2日目は二手に分かれ、1班は妻籠から馬籠峠までのゴミ拾い、オオハンゴンソウ除去、中山道沿いの看板拭き。2班は、一石柘立場茶屋とトイレの清掃を行いました。妻籠を愛する会の皆さま(藤原理事長からは休憩時に採りたて冷やしキュウリの差し入れもあり!)、一石柘立場茶屋の管理人の方、よみかき交流文庫を主催されている方達の多大なご協力を得て、怪我もなく終わりましたことに一先ずホッとしております。

私達のお客さまの中には、一石柘立場茶屋は世界で一番の休憩場所だと言ってくれた方もいました。いつもお世話になっている立場茶屋や中山道沿いの整備をたったの2日間だけでしたが、少しでも恩返しが出来たような気持ちです。可能でしたら、年1回と言わず、数回出来ればとも思っております。2019年に引き続き、まだ2回目を開催したばかりですが、今後も継続できるよう努力していきたいと改めて思った2日間となりました。ご協力いただいた全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

どうぞよろしくお願いいたします。



〈一石柘立場茶屋にて〉



〈オオハンゴンソウ除去〉



〈馬籠峠看板拭き〉

第56回文化文政風俗絵巻之行列 通常通り開催予定！

毎年11月23日に開催される文化文政風俗絵巻之行列ですが、新型コロナ感染拡大対策により昨年は規模を縮小し半日みの開催となりました。土砂降りという大きなおまけもつきました。

今年は52回以来、5年ぶりに渡島総合グラウンドから大妻籠まで歩くことになりました。昨年は木曾郡内だけの参加で、県外の方にはご遠慮いただきました。今年は全国から参加いただけることになり、一同楽しみにしています。雨だけはお断りです。

衣装が濡れてクリーニングに出したり、処分したりと衣装部はつらい思いをしました。それでも、新たにいろいろな方々から衣装を寄付していただき感謝しながら準備を進めています。

昨年の行列及び準備風景を掲載します。



宿場 暦

- 8月 1日：空き家対策特別委員会
 4日：撮影許可審議委員会
 15日：撮影許可審議委員会
 18日：歴史的まちなみフォーラム
 第2回実行委員会
 19日：週末ワークキャンプ in 妻籠
 (~20日)
 20日：広報147号発行
 22日：統制委員会
 23日：妻籠宿案内人の会役員会・学習会、
 山本学園撮影
 24日：愛宕山火まつり
- 9月 1日：三役会
 4日：撮影許可審議委員会
 5日：名古屋外国語大学学生フィールドワーク
 (一石栃立場茶屋他~10日)、
 NHK・長野放送撮影
 6日：椋山女学園大学学生来宿
 9日：信州歴史的まちなみフォーラム 2023
 in 妻籠宿 (~10日：95名参加)
 12日：妻籠観光協会三役会(常務)
 15日：令和5年度地域づくりネットワーク
 木曾支部総会(木曾町・理事長)、
 蘇南高校撮影
 20日：統制委員会
 21日：南木曾町博物館協議会(理事長)、
 JR東海発生土置き場(尾越)に係る
 工事説明会(妻籠町並み交流センター)
 22日：理事会
 25日：広報部会
 29日：蘇南高校撮影
- 10月6日：第56回文化文政風俗絵巻之行列
 第1回実行委員会
 10日：撮影許可審議委員会
 11日：テレビ信州撮影
 12日：南木曾町リニア中央新幹線対策協議会
 (理事長・常務)
 13日：衣装部会
 17日：妻籠観光協会三役会(常務)、国土交通
 省との意見交換会(風景街道・理事長)
 20日：統制委員会
 22日：令和5年度第3回観光地点パラメータ
 調査
 26日：妻籠宿案内人の会視察研修会(木曾町)
 27日：広報部会
 30日：空き家対策特別委員会

統制委員会審議事項

- 8月21日
 ・木製壁改修(渡島：個人) 1件
 ・ガードレール設置(町：蛇石付近) 1件
 ・電話柱の新設・撤去及び架空ケーブル移設
 (中電：尾又) 災害復旧 1件
 ・雨漏り応急工事(町教委：上嵯峨屋) 1件
 ・群状択伐(関電：下り谷・渡島) 2件
 ・開閉器の取替(中電：橋場) 1件
 ・引込線張替及び新設(中電：下町) 1件
 ・看板・暖簾の設置(下町：個人) 1件
- 9月20日
 ・仮設電源用電線設置(関電：蘭川発電所) 1件
 ・仮設備設置(関電：妻籠発電所) 1件
 (10/11：搬入のため発電所前全面通行止)
 ・樹木の伐採(町：上町) 1件
 ・令和5年度町道中山道道路災害復旧工事
 (町：下り谷) 1件
 ・仮引上げ柱新設工事(株TOSYS：下り谷) 1件
 ・支障木伐採(中電：恋野・軽便道) 1件
 ・屋根瓦の積直しほか(尾又：個人) 1件
 ・コンクリート歩道(下町：個人) 1件
- [その他]
 ・電柱移設(中電3件)次月申請
 ・尾又集会所水路石積修理
- 10月20日
 ・電柱の移設・新設及び電線の設置・張替
 (中電：恋野) 1件
 ・電線移設工事(中電：寺下・尾又) 1件
 ・引込線新設(中電：尾又発電所) 1件
 ・妻籠クリーンセンター正面門扉修繕(町) 1件
 ・上水道管及び「下水道管仮設工事
 (町：尾又災害復旧) 1件
 ・道路改良工事(町：下町) 1件
 ・群状択伐(関電：渡島・橋場、下り谷) 2件
 ・堰板・雨樋取替及び外壁塗装(恋野・個人) 1件
 ・樹木伐採(渡島・個人) 1件
- [その他]
 ・取り外し式手摺設置(下町・田原家)

【統制委員会からのお知らせ】

重伝建地区内で家屋の修繕等行うときには、事前に統制委員会への届出が必要となります。申請用紙は愛する会にあります。

また、補助金が出る場合もありますので、町教育委員会又は愛する会事務局にご相談ください。

景観保持のため、宿場内での路上駐車はやめましょう!

発行：公益財団法人妻籠を愛する会
 〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻2159-2
 TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

下町 磯村 琢 弥

今回は第一駐車場の奥の木橋から歩きます。この橋の向いている方向に真っすぐに歩き、料金所を目指します。今の法務局の地図では水と表記されていますが、明治の地籍図では道が描かれています。



《街灯を目指します》

駐車場から横断歩道へ下っていく道路の左側が道になっています。横断歩道手前で下町から下ってくる道と合流して、256号線を横断歩道の手前で渡ります。



《横断歩道手前を渡ります》

渡ってすぐにクリーンセンターの側面に沿って蘭川に向かう道と第二駐車場へ向かう道に分かれるのですが、第二駐車場へ向かう道は地番が入り、今は二軒の民家の土地のようです。道の続きになる第二駐車場の観光案内図の横から歩くことになるのですが、今の地図では料金所まで水と表記されています。



《ここから出てきます》

明治の地図では道が描かれていますが、本当のところどうなのでしょう。明治の三留野法務局の地図は木原鎌三さんという方が作図しています。この方は、奥谷調査報告書、妻籠小学校閉校記念、和智埜神社の寄付金銘録などに名前が見られますので、地元の方だと思います。道と水を間違えることはないと思うのですが、さて、どういうことなのでしょう。少し話はそれますが、この、道か水か問題で一番驚いたのが、第三駐車場奥から中山道が上り坂になるのですが、ここから水の表記なのですが。中山道は右へ曲がり竹藪の中の石積に沿って川へ下っているのです。



《道が残っています》

話を第二駐車場に戻して、料金所横のバイク用の駐車スペースを目指します。ぴんころ地蔵辺りで少し右に曲がり料金所左の隙間へ向かいます。ここを抜けたら駐車場奥、矢印の描いてある妻籠宿の看板前を通り256号線を渡るのですが、渡る所で明治の地籍図では道が分岐しています。一本は道路を垂直に渡り真っすぐ線を引くと、愛する会の横の階段と繋がり和智埜神社に通じますが、現在は私有地になっています。もう一本は道路を斜めに横断してバス停の待合所の裏を通過して柵形に続く道です。



《妻籠橋バス停裏を通ります》

次回はどこを歩くかまだ考え中です。